

# 極楽寺だより

長門市三隅下  
野波瀬  
0837(43)0625

## 春の永代経法要のご案内

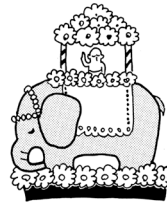
慈しみの光あふれる春となりました。生命の息吹を感じるとき、お浄土の人となられた方々が懐かしくしのばれます。

如来さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を味わい、仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次のとおりおつとめします。お誘いあわせ、お参り下さい。

四月二十六日(火) 昼一時半 夜七時半  
四月二十七日(水) 昼一時半

講師 福岡市 西教寺住職 森 哲人 師

### 東北地方太平洋沖地震 被災者の皆様にお見舞い申し上げます



## 花まつり

お釈迦さまのご誕生を祝い、春の法要の

二日間、本堂に花御堂を飾ります。ご自由に甘茶をかけて下さいね。

甘茶お持ち帰りをご希望の方は、どうぞお申し出下さい。



言葉がありません。映画のワンシーンで

は、「壊滅状態」「数百人の遺体」という言葉がよく耳にしますが、ニュースでこの言葉が流れてきたときには、本当に言葉を失いました。そこにあつた営みや温もりが、根こそぎ失われてしまったことの無念さを感じます。しかし、当事者の皆様は、私などが想像することもできないような思いの中におられることでしょうか。わずかでも、私たちができることはないだろうか。そんな思いの中で総代の皆様と相談し、門徒会計から十万円を「極楽寺門徒一同」名義で、本願寺を通し寄付させていただきます。皆さんのご理解を賜りたいと思います。また、皆さんも様々な場所で、寄付をされておられるでしょうが、極楽寺にも募金箱を設置いたしました。他でされても、勿論結構です。こんな時です。できることをさせていたきたいものです。

### 門徒会から十万円を寄付

東北地方太平洋沖地震では、多くの人々のいのちが失われま  
した。そして、今でも苦しんでおられる方がたくさんおられま  
す。しかし、そんな中でも災害発生時には、ほとんどのの方が礼  
儀正しく、周りの人を思いやり助け合って、行動されました。  
その姿は海外にも伝えられ、中国、アメリカをはじめたくさん  
の人たちが感動し、「日本はすごい」「日本の文化は素晴らしい」  
と賞賛されたそうです。私たちは、先輩方が作り上げてきたこ  
の大切な文化を、守り伝えていかなくはなりません。  
さて、大地震から約一ヶ月がたちました。未だに復興の  
目処も立たず、被災者の方々のご苦労は大変なものがある  
でしょう。しかし、もの凄い勢いで集まった義援金や援助  
への取り組み、そして被災地での助け合い、支え合う温か  
な交流を見聞きするたびに、感動してついつい涙ぐんでし  
まいます。仙台市で被災された方の「同じマンションに住  
みながら、これまで知らなかった者同士がいたわりの言葉  
をかけ合い、食料が手に入ると皆で分け合い、学生はボラ  
ンティアに活躍し、できることをみんなが取り組んでいま  
す」という新聞への投稿を読むと、やはり人間は一人では  
生きられないのだということ、共に生きる中にこそ温もり  
や喜びが生まれるのだということを知られます。



## 「本当の喜びとは」 住職

先日テレビを見ていたら、ラーメン屋さんの有志の方々が「被災地の人たちに、あったかいラーメンを食べさせてあげたい」と、ラーメン義援隊を結成し、避難所に駆けつけたという特集がありました。義援隊の皆さんが下準備にとりかかると、避難所の人たちも手伝いはじめます。中には、店を津波で流されたラーメン屋の店長さんが、うれしそうにチャーシューを切る姿もありました。準備が終わるといよいよラーメンをふるまう時間がやってきました。長い行列ができています。身体も心も温まるラーメンを食べる避難所の人たちは、本当にうれしそうです。でも、一番うれしそうだったのは、実はラーメン義援隊の人たちでした。

「これだけ美味しそうに食べてもらったら、また来ないわけにはいかないよね。」

そう語る義援隊の方の笑顔が、一番輝いていたのです。やはり人間には、「自分がしたこと、人が喜んでくれる」ということは、本当にうれしいことなのです。近頃は、自分の楽しみや喜びを追い求める時代ですが、自分が人の役に立っている、喜ばせているという充実感や、「あなたがいてくれて、うれしい」と言われた時の手応えこそが、

人間の本当の喜びなのではないかと考えさせられました。

藤場俊基ふじば としきという先生が、

「喜んでくれる人がそばにいる。喜ばせてあげたい人に囲まれている。そしてその人たちに喜んでもらいたいという気持ちになる」というのは、とてもすてきな関係だ

と言われています。そして、

大乘仏教だいじょうぶつぎょうとは、「自分が何かをすることによって、自分自身が喜ぶ」ことよりも、むしろそれによって他の人のところに喜びが生じるしやうじゆという視点しやてんから始まった仏教だと言えます。

とも言われています。私たちは、自分の喜びを追いかける時代に流されて、大切なことを忘れていたのかもしれない。

とはいえ、人間関係にんげんかんけいは難しいむずかものですから、人に喜んでもらおうとしたことが裏目うらめに出たり、すれ違ちがったりする場合ばいもあります。うまく伝わらないことで、相手せを責めることおさえ起こりかねません。しかし、「自分がしたこといとなで人が喜んでくれることを喜びとする」という営みしやうびつてんの出発点じやうはつてんは、自分の充実あいて感うやまではなく、相手への敬わすいの心であることは、忘れてはならないのでしよう。

今回の大震災は、本当に悲しい出来事です。被災者の方々のご苦労は、私かるなんか軽く語ることなどできません。そんな中でも、自分にできることを考えること、この悲しみの中から大切なことを見つけ出すことをしなければ、ただ悲しいだけにしかりません。深く味わいながら、向き合っていていきたいと思います。

## 謝 々

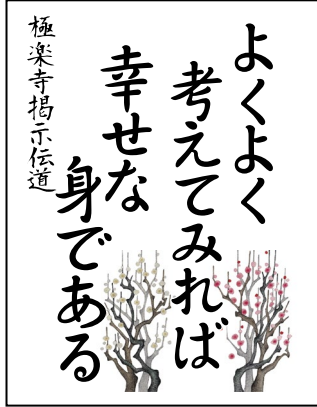
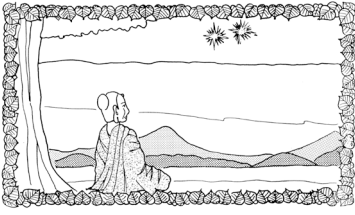


### プルトップ回収 ご協力についての 御 礼

いつも、プルトップ回収にご協力いただき、まことにありがとうございます。今回も、**39.2kg**(約 78,400 個分!)集まりました。プルトップの収益金は、県内各福祉施設の備品購入のために寄付されます。これからもご協力よろしく願います。

# 極楽寺揭示伝道

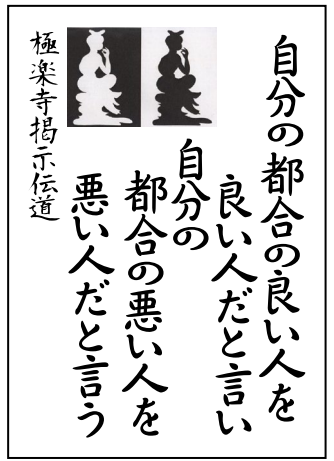
## けいじてんどう



### 1月の言葉

新年を迎えるに当たり、この言葉をあげさせていただきました。お正月には、皆さんそれぞれにいろんな目標をたてられたのではないのでしょうか。「今年はこのことをしよう」「これを手に入れよう」しかし、今の自分にはないものを求めてばかりいる。今の自分がどれだけのものを与えられているのかを忘れがちになりはしないでしょうか。どんな人たちに支えられているのか、どんな心に包まれているのか、新年を与えられているものを、与えて下さる方々を見つめ直す縁にしてはいかがでしょうか。

近頃は、「自分の都合で何が悪い!」と怒られそうな時代です。しかし、自分がいつも正しければそれでも良いのでしようが、なかなかそうはいきません。仏教では、「自分の都合(思い)」を想念そうねんと言います。そして、人が想念をもとに生きる時、想地獄そうじごくという地獄が始まるのだと教えられます。想地獄の住人とは、鋭くとがった鉄の爪てつづめを持ち、会う人同士がお互いを切り刻むそうです。これは、どこか遠くの世界の話ではなく、今私たちが生きている現代社会の在り方そのままではないでしょうか。自分の都合で人を切り刻み、自分自身が自分の都合に合わなかったら、今度は「こんな私は生きていても仕方がない」と、自分を切り刻んでいく。そんな自分の都合を振り回す私たちの姿を、阿弥陀様は悲しみの心、慈しみの心で、照らし出して下さるのです。



### 2月の言葉

## 極楽寺の桜が、満開です



「極楽寺のさくらは八重ざくら」と金子みすゞさんが歌われたのは、仙崎・浄土宗 極楽寺の桜ですが、野波瀬の極楽寺の八重ざくらも見事に咲きました。参拝された折には、ぜひゆっくりとご覧下さい。



自分のうそを聞いている

耳は黙っているくせに聞いている


極楽寺揭示伝道

### 3月の言葉

この言葉を見て、「そんな馬鹿なことがあるわけないだろう。耳は単なる身体の一器官ではないか。」と思われた方はありませんか。私も、仏法に出会うことがなかったら、そんな思いで、この言葉を見ていたに違いありません。現代社会に生きる私たちは、頭だけでものを考えて、身体のことを忘れていないかと考えさせられるのです。

ヨーロッパで、国と国との大戦争が起こって本格的な大量殺りくが起るようになったのは、十七世紀くらいですが、それは地図が作られはじめた時期と重なるそうです。その前は王様が丘の上に立ったら見渡す限りが自分の土地で、いろんな農作物があって、「ああ、すごい」と思えた。ところがそれを地図で見ると、「なんだ、これだけか」「隣の国の領地はこれだけある」と、頭の中でどんどん広がっていく。身体を忘れて、頭だけでものを考えることで、欲望に歯止めが効かなくなる。私たちは、攻撃性というものは身体にあって理性がそれを抑えていると思いがちですが実は逆で、脳がバーチャルに攻撃性を増大させ、身体が「そりゃ、無理だろう」と抑制するんだという説もあるそうです。考えてみれば、一生かかっても使えないようなお金を儲けて、それでも満足できずに、もっともっとお金を儲けようとする人たちのマネーゲームが、地に足をつけて生きている人たちの生活を振り回している時代です。まさしく身体を忘れて、頭だけで生きている時代だと言えるでしょう。身体の声に耳を傾けてみる時に、頭だけでものを見ている虚仮の姿が見えてくるのかもしれない。

仏様が知って下さっていたらよいではないか



極楽寺揭示伝道

### 4月の言葉

な営みでもありません。もちろん、自分の頑固さを正当化するために、阿彌陀様を使うことは、阿彌陀様を悲しませるようになってしまいますから、注意しなくてはなりません。

一時期、「KY(空気が読めないの略)」という言葉が流行りました。それだけ、その場にいる人たちの顔色を伺いながら生きていかななくてはならない時代なのでしょう。でも、空気を読むこと、人を思いやることは全く違います。「赤信号、みんなで渡れば怖くない」「ピートだけ」という名言がありますが、まさしく空気に流されるときには、人をいじめたり、傷つけたりも、平気でできるのです。「みんなも払っていないから、私も払わない」という理屈で、給食費を払わない人たちが出てきたのも、そんな空気に流されたからでしょう。

昔の人たちは、今ここにいないだけではない人たちのまなざしや呼び声と共に生きておられました。「うちの鰻屋は、タシに変なものを入れたり、産地偽装なんてやらないよ。そんなことをしたら、ご先祖様が代々守ってきたノレンを汚すことになる」とか、「こんなことをしたら、母ちゃんに会わず顔がない」とか。そして、「誰もわかってくれないけれど、阿彌陀さまだけはわかってくれる」ということを拠り所に、場の空気に流されることなく、大切なことを守って生きられた人もたくさんおられたのです。お念仏と共に生きる。阿彌陀様と共に生きるとは、そんな営みでもありません。

# 奉告参拝のお薦め

結婚、出産、受験合格、スポーツ大会での活躍・・・それぞれの慶びを阿弥陀様に奉告されませんか。初参式（お宝受けとも言います）は、既に何人も参拝者があ  
り、本堂に掲示しきれないほどの写真が増えてうれしい悲鳴をあげているのですが、先



結婚奉告参拝に来られた、山中さん御一家

豊原の山中さん御夫婦の結婚奉告参拝がありました。「奉告」とは仏さまに謹んで告げるという意味で、事務的に結果を述べる「報告」よりも、より丁寧に行うことを表します。慶びを阿弥陀様に奉告するということは、阿弥陀様の光に照らされ

て、その慶びを支えて下さる世界と出遇っていくことでもあります。どんなことでも結構です。お電話にて、参拝希望日を言っただけでしたら、お寺で記念品を用意させていただきます。お電話にて、参拝希望日を言っただけでしたら、お寺で記念品を用意させていただきます。

## 前売り券有ります

親鸞聖人750回大遠忌法要が、いよいよ本願寺にて厳修されます。

その記念企画の一環として、下関

大丸で『親鸞展』が開催されます。当日800円のところ、500円で入場できる前売券を、お寺で手配できます。御希望の方は、あらかじめお電話でお問い合わせ下さい。



## 5月10日～23日

## 7階文化ホール

# 下関大丸にて親鸞展開催